

ご挨拶

第5回日本動機づけ面接協会年次大会の開催にあたって

大会長 澤山 透 (北里大学医学部精神科学)

この度、第5回日本動機づけ面接協会年次大会を開催させていただくことになり、大変光栄に思いますとともに、皆様のご協力あつての大会ですので、どうぞよろしくお願ひ致します。本大会は、動機づけ面接(以下:MI)を学び始めた初学者から、研修会などを開催しているトレーナーまで、様々なレベルの方々にも学びを深めていただけるようなプログラム編成を心掛けました。また、岡嶋美代先生に「エクササイズ・マーケット」という楽しい前夜祭も企画していただきました。

年次大会のオープニングは、MIの評価尺度の1つであるMITI(Motivational Interviewing Treatment Integrity)の開発者であるデニス・エルンスト先生(ポートランド州立大学)の基調講演です。MIの研究に関する新たな知見が学べることと思います(デニス・エルンスト先生には、年次大会の基調講演だけでなく、前日(3月17日)と年次大会の夜(18日夜)にMITI4のワークショップ、さらには、3月19日~20日には原井先生とご一緒に、MIワークショップのトレーナーをご担当いただきます)。

基調講演の後は、原井宏明先生(なごやメンタルクリニック)に、「MI-2からMI-3へ 第3版で何が変わったのか?キー・コンセプトとその日本語化」というテーマで特別講演をしていただきます。動機づけ面接第3版の翻訳本の出版は、日本におけるMIのさらなる発展に多大な影響を与えることは間違いないと思われまふ。貴重な特別講演をぜひ皆様にお聞き頂きたいと思ひまふ。

午後からは、一般演題4題の発表を行います。4名の演者の先生は、それぞれの分野の第一線でMIを活用されている方ばかりです。興味深いお話が聞けること思ひまふ。

一般演題の後は、加濃正人先生(新中川病院)による「ビデオIPR(Interpersonal Process Recall)で、動機づけ面接を学ぶ」というワークショップを行います。参加者2~3名の方にリアルプレイ(もしくはロールプレイ)で、面接を行っていただき、それをビデオで撮影し、面接終了後、その映像を見ながら面接を振り返るといった形式でMIを学びまふ。通常より限られた時間での研修とはなりまふが、皆様のMIのトレーニングのヒントになる研修になることと思ひまふ。

また、年次大会終了後の3月18日夜には、MITI4のワークショップとは別に、昨年も好評でした看護師向けMI初級ワークショップも行ひまふ。

以上、本大会のご紹介をさせていただきましたが、参加者の皆様にとって実りの多い大会となれば幸いです。各種ワークショップと合わせて、どっぷりとMIをご堪能ください。

プログラム

- 10 : 30 開会挨拶 澤山 透 大会長 (北里大学医学部精神科学)
- 10 : 35 基調講演
「動機づけ面接：変化について会話は何を伝えてくれているのか？」
講師：デニス・エルンスト (ポートランド州立大学)
座長：山田英治 (横浜家庭裁判所)
- 11 : 30 ～休憩～
- 11 : 40 特別講演
「MI-2 から MI-3 へ 第3版で何が変わったのか? : キー・コンセプトとその日本語化」
講師：原井宏明 (なごやメンタルクリニック)
座長：澤山 透 (北里大学医学部精神科学)
- 12 : 30 ～昼食休憩～
- 13 : 30 一般演題 (各発表 10 分+質疑 4 分)
座長：磯村 毅 (予防医療研究所)
- 「動機づけ面接を用いたアディクションの家族プログラム
(Motivational Interviewing for Family Training : MIFT)」
高橋郁絵 (原宿カウンセリングセンター)、岡嶋美代 (千代田心療クリニック)
- 「自死遺族・自死未遂者の「生きる」ための支援
— 「分かち合い」における動機づけ面接法の援用可能性探求」
青木世識 (カトリック麹町・聖イグナチオ教会)
- 「意思決定支援における動機づけ面接の応用について」
川崎千枝 (世田谷区社会福祉協議会)
- 「是認の主語は You か I か? 是認の効果に関する研究」
今井淳司 (東京都立松沢病院)、原井宏明 (なごやメンタルクリニック)
- 14 : 35 ～休憩～
- 14 : 45 ワークショップ
「ビデオ IPR (Interpersonal Process Recall) で、動機づけ面接を学ぶ」
講師：加濃正人 (新中川病院)
- 16 : 25 閉会挨拶 山本一羊 (エコロジーヘルスラボ)
- 16 : 30 終了

基調講演

デニス・エルンスト （ポートランド州立大学）

Motivational Interviewing; What does the conversation tell us about change?

動機づけ面接：変化について会話は何を伝えてくれているのか？

Advances in the MI process research in recent years have brought to light several issues including the importance of strategically managing the client's sustain talk as well as their change talk.

In addition, the expression of the MI spirit and the consistent use of the core skills are necessary to achieving the desired outcomes of integrating MI within organizations, programs, and individual practices.

The Motivational Interviewing Treatment Integrity (MITI) 4.2 coding system, released in January, 2015, was updated to address the issues raised by the process research.

New global measures of the clinician's management of change talk (Cultivating Change Talk) and sustain Talk (Softening Sustain Talk) have been added to the system.

More explicit ways of measuring how the clinician provides information and supports autonomy have also been added.

The MITI system can be used to monitor the uptake and development of MI skills, in both groups of clinicians as well as individuals.

The client is the other half of the conversation. What have we learned about how the client influences the conversation?

This talk will include a will examine what we have learned and how that knowledge can be used to advance practice and increase the likelihood of achieving the desired client outcomes.

近年のMIのプロセス研究の進歩はクライアントのチェンジトークだけでなく、維持トークを戦略的に扱うことの重要性などを明らかにしてきている。それに加えて、MIを組織内やプログラム、個別の臨床に組み込んで望む結果を得るためには、MIのスピリットが表に出ていることと間断のない中核技能の使用が不可欠である。コーディング・システムである動機づけ面接治療整合性（Motivational Interviewing Treatment Integrity, MITI）は、こうしたプロセス研究の成果を反映するために2015年1月に4.2版にアップデートされた。臨床家がチェンジトークと維持トークをどう扱うかを評価する、チェンジトーク促進（Cultivating Change Talk）と維持トーク減弱（Softening Sustain Talk）が全体尺度として新たに加わった。MITIのシステムを使えば、MIの技能を臨床家がどのように習得し向上させているかをグループでも個人でもモニターすることができる。

また、クライアントは会話における片割れである。クライアントは会話にどのように影響をあたえるのかについてどこまで分かっているのだろうか？この講演ではどこまでがすでに分かっているのか、そして知識をどのように使えば臨床の改善が得られ、クライアントにとっての望ましい結果が得られる可能性が高まるかについても触れる。

一般演題

動機づけ面接を用いたアディクションの家族プログラム

(Motivational Interviewing for Family Training : MIFT)

高橋 郁絵 (原宿カウンセリングセンター)

岡嶋 美代 (千代田心療クリニック)

筆者らは、依存症家族に対して動機づけ面接を応用して当事者とのコミュニケーション能力を訓練するプログラム MIFT を開発した。依存症の家族プログラムでは CRAFT (コミュニティ強化アプローチを用いた家族訓練) が有名であるが、やや難解で機能分析や行動分析を熟知した者でないと使い勝手が悪い。これに対して、MIFT は動機づけ面接をコミュニケーション技法の中心に取り入れ、8 週間にわたって毎週 90 分の集団教育として家族向けに訓練する。本発表ではプログラムの詳細と少数ではあるが、結果を報告する。プログラムの構成は「間違い指摘反射 (righting reflection)」の抑制を最重要課題とし、その代替行動となる共感・是認の伝え方を課題とする他、当事者から言われて困る一言に対して、返す言葉を用意しておいて、自宅で使ってみるなど、実践的ですがすぐにでも役立つような内容にしている。

「自死遺族・自死未遂者の「生きる」ための支援

— 「分かち合い」における動機づけ面接法の援用可能性探求—

青木 世識 (カトリック麹町・聖イグナチオ教会)

発表する内容の概要

目的：次の2点である。

(1) 自死遺族、自死未遂者の「生きる」ための支援に資するために、動機づけ面接法をどのように援用することができるのか、沈黙の共有を通じて、参加者に体験や実践に基づいた考察を呼びかけたい。

(2) 前回紹介した、カトリック教会における「自死遺族の集い」を参考に、当事者限定の場である「分かち合い」と呼ばれる場における動機づけ面接法の援用可能性について、参加者に考察の共有を呼びかけたい

<備考> 遵守事項について

※参加を希望される方には、参加者の個人的内容に関する守秘徹底をお願いします。このため、録画、録音、途中入室等を禁止します。なお、本件は、業務上の立場ではなく、個人としての参加を広く呼びかけるものです。

意思決定支援における動機づけ面接の応用について

川崎 千枝（世田谷区社会福祉協議会）

「自己決定の過程を援助される権利」をご存じだろうか？意思決定支援の問題は、成年後見制度の分野において、2014年に我が国が障害者権利条約を批准したことを契機に急浮上してきたように思われがちだが、精神保健の分野では今から20年も前の1996年にWHOがクライアントにこの権利を保障していたことに注目した筆者は、自己決定の過程を援助する技法として、動機づけ面接に着目した。

クライアント中心かつ目的志向的な面接のスタイルによってクライアントのアンビバレンスを探り、それを解消する方向に行動の変化を促していく動機づけ面接は、自己矛盾を扱うところに特徴があり、その振り幅が広ければ広いほど応用しやすい。

アンビバレントなニーズを矛盾と捉え、聞き返し等でその矛盾を広げて課題の重要度を高め、本人が潜在的規範意識に気付けるよう対話しながら自己決定の過程を援助していく面接技法は、セルフ・ネグレクトや虐待の養護者支援、社会的孤立などの困難事例への応用が考えられる。

是認の主語は You か I か？是認の効果に関する研究

今井 淳司（東京都立松沢病院）

原井 宏明（なごやメンタルクリニック）

【背景】是認はMIの中心にある。研修ではYOUを主語とする方が良いと指導する者が多い。親業や主張性訓練なども「アイ・メッセージ」を推奨する。一方、実証的データは乏しく、MIと他の精神療法とは違うのも事実である。どちらも根拠がはっきりせず、またあったとしても英語の場合であり、主語を省きがちな日本語ではどうかはわからない。我々は是認における主語の選択の影響について実証的研究を試みた。

【目的】主語を変えた場合での是認の効果と比較する。

【方法】発表者が開催したMIワークショップ参加者56名に主語をYOUにした是認とIのものに対して、1～10点で是認の効果の評価させ、またその理由を記載させた。Wilcoxon符号付き順位和検定により群間比較を行った。

【結果・考察】全体平均での差は僅かだった。一方、個人差は大きく、どちらか片方をはっきり良いと評価する参加者が多かった。日本語でのMIにおけるトレーニングのあり方についても考察する。

MEMO

MEMO

MEMO